

卵子提供を実施されたある夫婦のインタビューから

○佐野 郁美、杉本 朱実、森本 義晴

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

不妊治療をされている夫婦にとって最終的な希望は子どもを家族に迎えることである。家族の形は様々であり、選択肢の一つとして卵子提供がある。

現在、日本国内では卵子提供における法律やガイドラインが示されない中で必要な情報や選択の支援が不十分な状況である。卵子提供を選択される夫婦には、意思決定や出自の開示に関する支援も必要である。今回、卵子提供を選択するご家族の支援を検討することを目的とし、インタビューから見えたある夫婦の一事例をここに報告する。

【方法】

期間:2018年10月から2019年2月20日まで(準備期間含む)

企画後、施設内の倫理委員会へ申請、許可の後、夫婦の同意を得てインタビューを実施した。

インタビューはあらかじめ作成した(1)不妊治療から卵子提供を選択した理由をお聞かせ下さい(2)卵子提供を選択するまでに葛藤はありましたか?など<意志決定><場面毎の気持ち><卵子提供を選択した後の出自の開示や子育てについて>という3つのカテゴリーに分けた10項目の質問を元に夫婦の自宅で実施した。インタビュー内容はレコーダーにて録音し記録した。

【結果】

卵子提供を選択するまでの気持ちについて、妻個人にとっては自然な流れであった。また、初めは反対意見であった夫の心境の変化には医療従事者の対応や実際に足を運んだ説明会が大きく関わっていた。また、出産までの気持ち、出自の開示への考えについて直接聞くことができた。

【考察】

情報提供の行い方により、夫婦の今後進まれる道が変わる可能性が考えられ、情報提供の時期、正確さ、伝え方の重要性が窺えた。今回の提示は一事例であるが、今後症例数を増やしてあらゆる場面から求められる支援をするべきか更なる検討を行う必要がある。